

活動を通しての学び

活動先：NPO 法人 ふれ愛

クラス：村上 徹也 先生

1. 自分の成長と気づき

私はサービスマーケティングにおいて、「特定非営利活動法人 東海市在宅介護家事援助の会 ふれ愛」で活動させていただいた。活動では、ふれ愛が行う「謝恩バザー」でのゲームコーナーの準備と当日の担当をし、グループホームでは利用者の方と4日間一緒に過ごした。活動の中ではまず、グループホームで利用者の方と一日を過ごし、利用者の方との関わり方を学んだ。グループホームの利用者の方は認知症の症状が違ったり、性格もその人それぞれであったりと、その方の生活歴や性格など一人一人にあわせて対応していくことが重要であることを学んだ。私は自分から声をかけていくのが苦手で、声をかけたりするのとても緊張し最初はどう接したり何を話したらいいか分からず不安だったが、利用者の方と歌を歌ったりご飯を食べるなどして一緒に過ごすことで不安はなくなっていった。また、職員の方から、話かけたり車いすをおしたりして介助する時には必ず目を見ることなどコミュニケーションについてのアドバイスをいただき、それらを意識して利用者の方と接することができた。

また、自分たちで利用者の方たちと何をするか計画し実行する中で、計画し実践する力が身に付いた。利用者の方と折り紙をした時に難しいものを選んでしまいうまくいかないこともあり、事前の準備がとても大切であることに気付いた。しかし、最後のどら焼きづくりでは皆さんに喜んでいただき、笑顔を見ることができてとてもうれしかった。

他にも、実際にNPOで活動することで、NPOが取り組もうとしている課題・地域における課題などを知ることができた。そしてNPOはさまざまな人が出会い、活躍できる場であることを学んだ。私が活動した「ふれ愛」では多くのボランティアの方が訪れたり、仕事を退職した男性、軽い知的障がいのある方が働く場であったりと、いろんな人が活躍し集まる場所であった。そしてそれは多くの人の居場所づくりにもなっていると学んだ。私は活動の中でNPOの活動の重要性を学び、地域福祉に興味をもつようになった。そのため、これからの学びの中でもこの活動を生かしてもっと学びを深めていきたい。

2. 活動を通して見えてきた社会課題

活動の中で私が感じた社会課題は、もっとNPOと地域の人々との交流があるべきだということだ。謝恩バザーで地域の人々がふれ愛に足を運んだり、ボランティアの方が来て楽器を演奏し一緒に歌を歌うという機会があったりしたが、もっと近くに住む地域の人々がNPOの活動について知り、関わる機会があるべきだと感じた。

私は活動の中で「謝恩バザー」が行われた日に子どもたちのためのゲームコーナーを担当した。自分達の声かけが悪かったのもあり、あまり子どもたちにゲームコーナーに来てもらえなかった。原因としては用意していたボーリングやゲートボールドーツなど、ゲー

ムの対象の年齢の子どもたちは皆親の手を離れずにいたからである。このことから私は、その親子を誘うことができれば、一緒にバザーに来てゲームを楽しみ、一緒にふれ愛を知るきっかけになると考えた。NPO と地域の人々との関わりを増やすためにはまず NPO の存在について知ってもらわなければならない。その点で、気軽に足を運んでもらえる祭りなどの催し物はとてもよい機会である。そのため、もっと多くの人々がこれを知ることができるようにアピールするべきである。小学校や保育園で紹介してもらおうなどして、地域の人々に催し物のついて知ってもらい、より多くの地域の人々が集まることのできる機会になればと思う。

また、高齢者や子どもなど地域のいろんな世代の人が交流できるサロンなどを設け、地域の人々が気軽に参加できる場が必要であると考えた。誰もが気軽に集まれる場所があることで、高齢者や子ども、障がい者の居場所づくりになり、また地域の人々が多くの人と関わるきっかけづくりにもなるからである。

私はサービスマーケティングを通して、NPO は施設や学校などだけでは解決できない地域のニーズに応えることのできる存在であることを学んだ。また、さまざまな人が出会える場所であると感じた。その良さを活かすためにもっと地域の人々が NPO について知り、参加するべきである。そのために子どもたちが地域の活動・NPO の活動に興味を持ち、参加して地域のことを知る機会を増やすべきであると思う。子どもたちが地域に参加することは、子どもたちの市民教育、親や家族など大人たちも一緒に地域に参加するきっかけづくりになり、地域に住民が NPO について知る大きな機会になると思う。地域住民が地域、NPO について知り、関わりが増えればより地域の人々が必要としていることが明らかになる。また、その地域をよくしていくことができる。そして多くの人々の居場所が増え、皆が生き活きと暮らしていけるのではないかと私は考えた。そのために、もっと NPO の活動が身近に感じることのできる取り組みが必要であると感じた。